

日本労働年鑑 第54集 1984年版
The Labour Year Book of Japan 1984

第二部 労働運動

XIII 政党

3 選挙

1 中間地方選挙

知事選

八二年七月以降、八三年四月の統一地方選まで、一一の県で知事選がおこなわれた。当選者の政党支持関係は、自民党公認四(愛媛、青森、石川、熊本)。保守・中道連合は三で、このうち自・民・新自の三党連合一(沖縄)、これに公明の加わった四党連合一(栃木)、さらに社民連の加わった五党連合一(兵庫)であった。また保守・中道に社会党が相乗りしたものは、自・社・公・民の四党連合一(山梨)、これに新自・社民が加わった六党連合一(愛知)である。他は、前回同様、共産党をふくむ七党全部が相乗りした滋賀、社・共共闘に民社・社民連が加わった香川である。現職が相変わらず強味を発揮し、出馬した九県で全員再選された。保守・中道連合が定着し、これに社会党が相乗りするケースも目立っている。革新は前回に次いで沖縄で破れ、香川で革新県政をkarouじて維持した。

市長選

統一地方選をのぞいて、七八年七月から七九年六月までの一年間に実施された市長選は、北九州、広島の二つの政令指定都市をふくむ一四四であった。相変わらず無投票当選が多く、一四四のうち四〇と二七・八%にのぼった。

革新市政が保守・中道に敗退したケースとしては、八二年一一月の五泉(新潟)、八三年二月の江刺(岩手)、土佐(高知)、七月の江津(島根)などがある。逆に、保守市政から新たに革新市政となったのは、八二年一一月の高萩(茨城)、八三年七月の平良(沖縄)、伊東(静岡)などである。八三年一月の新潟、五月の寝屋川(大阪)などでは、ひきつづき革新市政が維持された。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始